

かわらけづくりの住んだ町

～一乗谷朝倉氏遺跡瓢町の発掘調査から～

1. はじまりは「瓢町」

第18次調査は、昭和51年（1976）に行われました。調査地は、一乗谷の中にある城戸ノ内町の瓢町。一乗谷では珍しい「町」の付く地名です。また、この土地の区画は、狭く不規則な形をしていました。実は、これが調査地に選ばれたきっかけなのです。

それまでの調査は、朝倉館跡や、大規模武家屋敷など朝倉氏の重臣の名前にちなんだ地名の残る広い区画を中心に進められてきました。そうした中、これまでとは特徴の異なる地点を調査しようと思われたのが瓢町です。狭い区画が広がる瓢町には、かつてどんな町並みが広がり、どんな暮らしが営まれていたのでしょうか？これが第18次調査のテーマでした。

発掘調査をはじめると、多くの遺構や遺物が見つかりました。調査区の西端と南端では砂利敷き道路が見つかり、西端の道路沿いには石組溝で区画された狭い敷地が並んでいました。また、調査区の北側には広い敷地が見つかりました。

中でも注目されたのが、西端の道路沿いに並ぶ狭い敷地と、そこから見つかった土師質土器を焼いたとみられる窯や、並べて設置された大甕です。また、見つかった遺物には土師質土器の製作に関するものが含まれていたことも注目されました。こうしたことから、瓢町にはかつて、道路沿いに小規模な町屋が建ち並び、そこには土師質土器を焼く職人や、大甕を使って仕事をする職人がいたと推測できます。また、敷地の区画が時期によって変化することもわかりました。

発掘調査を終えたら資料を整理し、成果を検討します。第18次調査では、出土遺物を検討したところ16世紀のものが中心であったため、見つかった遺構が朝倉氏の時代のものと確認できました。とくに、一乗谷が滅亡したころの遺物が、一番新しい第3段階の遺構や表土からしか見つかっていないので、第3段階が一乗谷の最後の頃だと分かります。このほか、かわらけづくりに関連する資料の検討なども行いました。

2. 瓢町のかわらけづくり

中世の低温で焼かれた素焼きの焼き物を総称して土師質土器と言います。また、土師質土器のうち、「皿」を指して「かわらけ」ともいいます。

第18次調査では、土師質土器を焼いたとみられる窯の跡や窯の破片とみれる焼土塊、かわらけとその

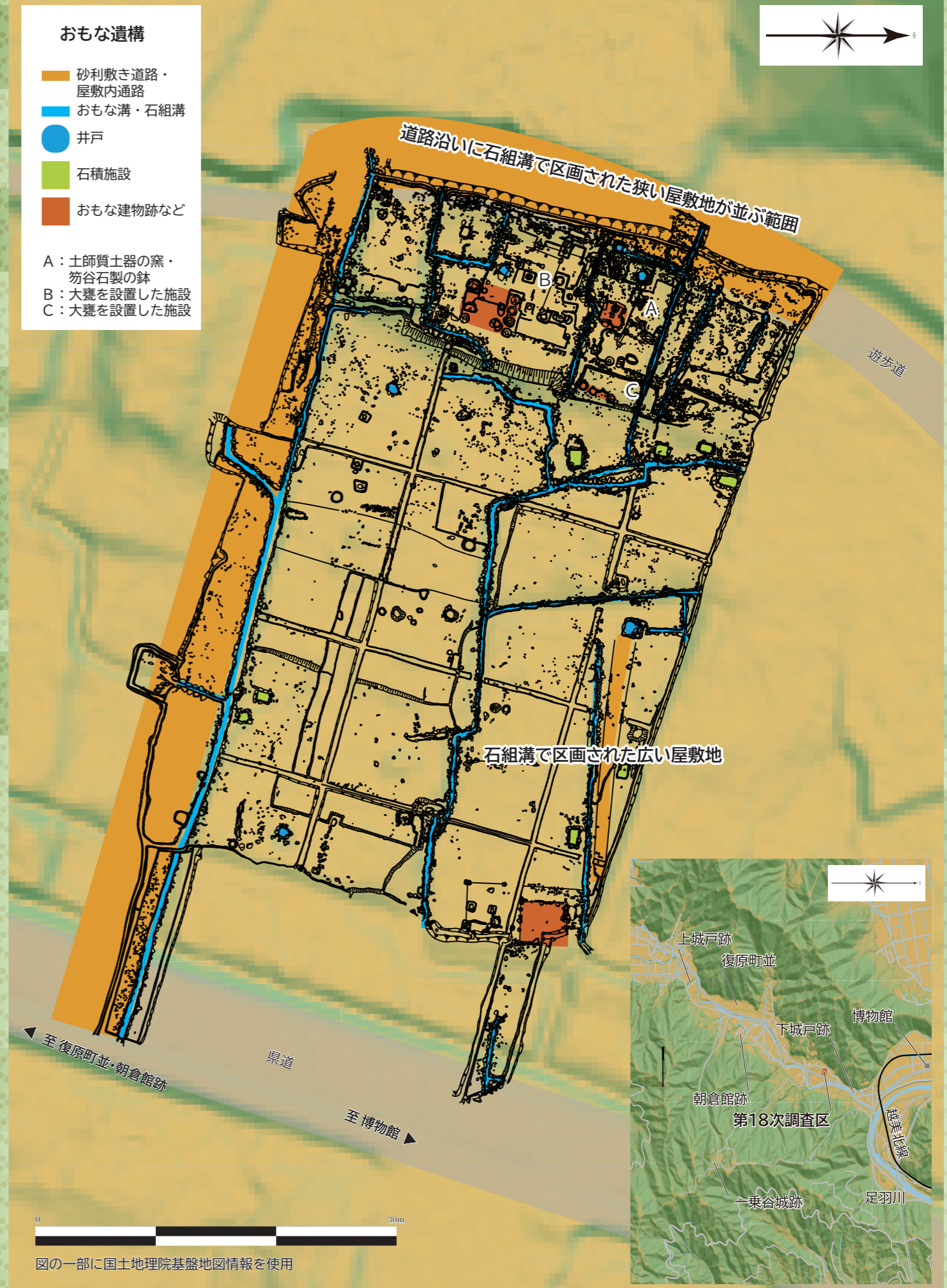


図1 第18次調査区全体図

失敗品を含む多くの土師質土器が見つかりました。このことから、瓢町には土師質土器を作る職人＝「かわらけづくり」がいたと調査当時から考えられてきました。もしそうならば、そのような遺跡の調査事例は全国的にも少ないので、学術的に大きな意味をもちます。しかし、見つかった土師質土器の全てがかわらけづくりに関係する資料とは限りません。では、どの資料が関係する資料なのでしょう？また、瓢町で作られた土師質土器にはどんな特徴があるのでしょうか？第18次調査の整理作業とその後の検討では、この疑問に挑戦しました。

かわらけづくりの資料は？

検討の第一歩は、土師質土器の製作に関わる資料とそうでないものを分ける作業です。

窯の破片や失敗品がまとまって見つかる場所は、土師質土器を焼いた後にいらぬものをまとめて捨てた場所だと考えられます。そのため、窯の破片や失敗品と一緒に見つかった土師質土器は、同じ窯で焼いたひとまとまりの資料＝土師質土器の生産に関わる資料だと考えられます。また、捨て場は他の地点より土師質土器の出土量が多いと見込まれます。珍しい土師質土器が見つかることもあるでしょう。一方で、作ってすぐ捨てたのなら、使った痕跡のある土師質土器は対象から外すことができます。したがって、窯の破片・失敗品・多くの土師質土器を含む地点・地層から見つかった、使った痕跡のないものが、土師質土器生産に関わる資料だと言えます。

瓢町で作られたかわらけの特徴

土師質土器の生産に関わる資料が分かったら、次は資料の特徴を検討します。具体的には、①どんな土師質土器が作られていたか？、②かわらけはどんな作り方や形をしているのか？を検討しました。

まず、作られていたものを知るには、見つかったものを調べれば分かります。具体的には、かわらけ・大型の丸皿・脚付の皿・大皿・土釜・器台・壺・小壺・土鍾のほか、特殊な形をしたものが見つっています。

一口にかわらけと言っても、いくつかの形や作り方があります。一乗谷朝倉氏遺跡ではこれまでの調査から、底を盛り上げたA類、指で押さえて形を作っただけのB類、内面をきれいなでたC類とD類などに分類されています。C類とD類はなで方の違いで区分しますが、大小で使い分けられていることも知られています。瓢町の土師質土器生産に関わる資料のかわらけに見られる特徴は、一乗谷朝倉氏遺跡でよく見つかるものの特徴と一致します。瓢町で作られたかわらけが、谷の中で使われていたのでしょう。一方で、異なる特徴をもつ資料もわずかに見られることから、一乗谷には、瓢町を含む複数の窯からかわらけが供給されていたと考えられます。

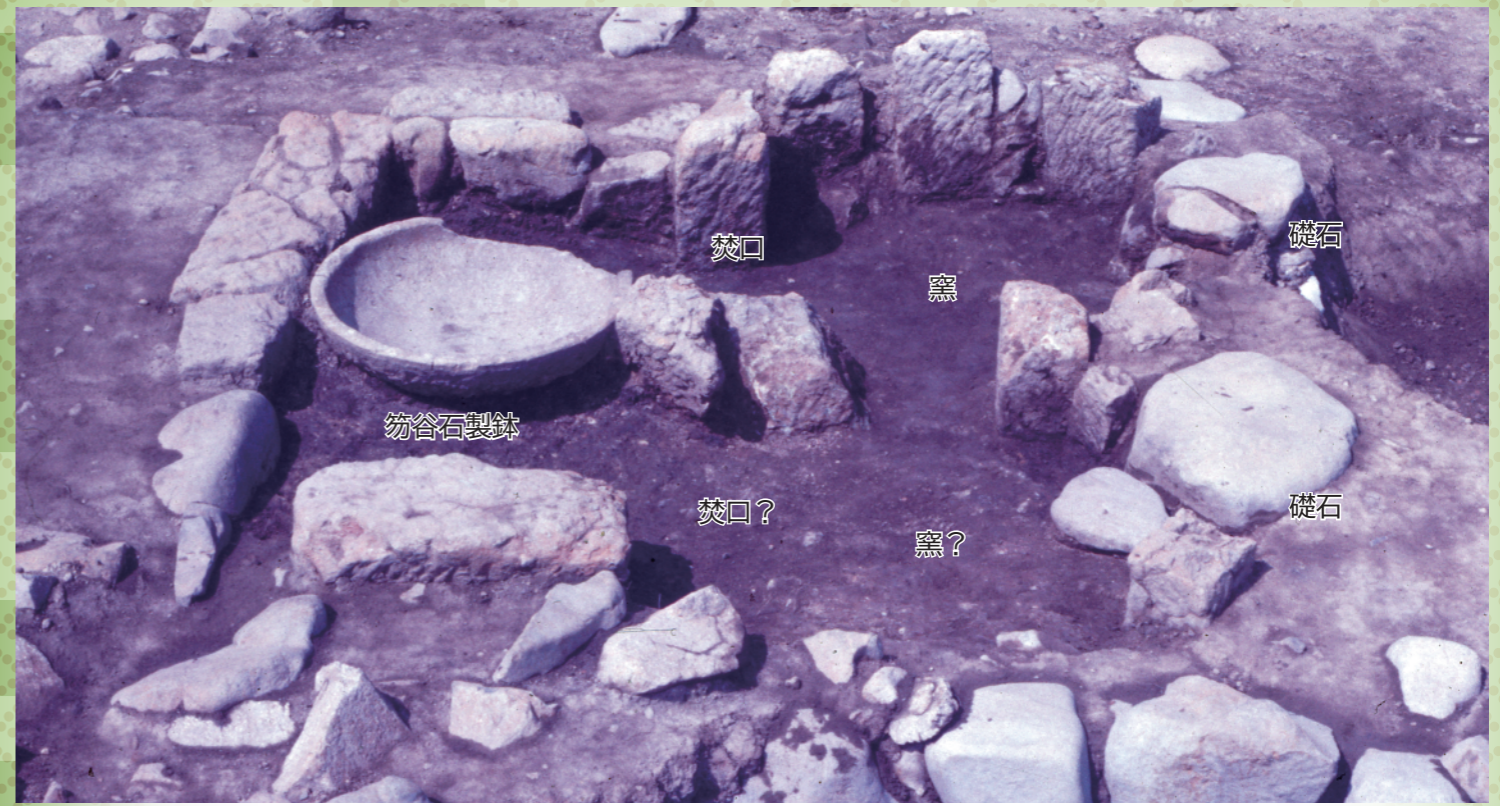


写真1 土師質土器を焼いたとみられる窯



写真2 一乗谷朝倉氏遺跡でみつかるとおもな土師質土器（いずれも第18次調査出土）

トピック展「かわらけづくりの住んだ町 ～一乗谷朝倉氏遺跡瓢町の調査成果から～」展示解説

会期 令和8年3月10日～5月10日
 会場 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館本館2階特別展示室
 作製 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館